



二月七日(水)十時より、八幡事業所に於いて、三回目のミニ座談会を開きました。
今回は、八幡地区のボランティアさん三名と事務局から五名のザックバラんな座談会となりました。
山田理事長より、「日頃、ゆつくりと話し合える機会が少ないので今日は気軽な気持ちで話せる場を設けさせていただきました。ボランティア活動の問題点などお聞かせ下さい。」と挨拶がありました。
最初に、事務局とボランティア

第3回

ザックバラんな座談会開催

アさんの自己紹介から始まりました。

ボランティアさんは「さわやか」の他に地域の活動にも積極的に参加をされているようで、それぞれに話はずみでした。事務局より「さわやか」のボランティア活動についての問題点をお聞きしました。

Q 福祉有償運送になって問題点がありますか？

A 最初は、ボランティアとして、マグネットシートやネームプレートを装着してまで送迎することに抵抗がありました。現在は抵抗なくできるようになりました。

Q 送迎中に気をつけている事がありますか？

A 送迎中、必ず何か一言、声をかけをするようにしています。その時の返事によって、利用者さんの体調などがわかるようになってきました。
利用者さんの前向きな気持ちがいれしく、逆に私たちが励まされています。

Q 現在の送迎体制に何か問題がありますか？
A 時々、都合でお休みさせてもらっていますが、今の送迎状況で順調にっています。

Q 透析後に患者さんが遅れた場合の対処は？
A 病院によっては、駐車スペースがないところがあるので、病院との連携により、患者さんが遅れる場合は、病院より事務局かボランティアさんの自宅に連絡が行く体制をとっています。



参加していただいたボランティアさん紹介

山下 精一郎さん
八幡西区
「さわやか」ボランティア歴 五年

小島 喜子さん
戸畑区
「さわやか」ボランティア歴 二年

福田 康堂さん
戸畑区
「さわやか」ボランティア歴 一年半

Q 送迎後、利用者さんから缶ジュース等をいただく事について？
A ボランティアの皆様が気になるようですが、利用者さんの感謝の気持ちですので快くお受けしても良いのではないのでしょうか。

その後、シャントの流れや、穿刺部からの出血や、血圧低下時の対処の仕方などの話ができました。様々な話があり、十一時三十分を終了しました。
ボランティアの皆様方と事務局との関係は、なにかと事務的になりがちですが、座談会を持つことで、ボランティアさんと事務局の距離が短くなったのではないのでしょうか。

ボランティアさんの感想

◆非常に良かった。緊張しないで、ざつぱらんに話ができました。世間話なんかで事務局とのつながりができるのは、嬉しいことです。

◆初めて参加しました。年一回くらい開催してみんなの声を聞くのはいいと思います。



第27回 ボランティア研修会 ご案内

透析患者を、より理解していただくために、透析についてのお話と、以前から、ボランティアさんより要望の多かった透析室の見学をさせていただくことになりました。

日時 三月六日(火)
十時より十二時まで

場所 小倉第一病院
六階 多目的ホール

講演 透析について
小倉第一病院
副院長 中村秀敏 先生

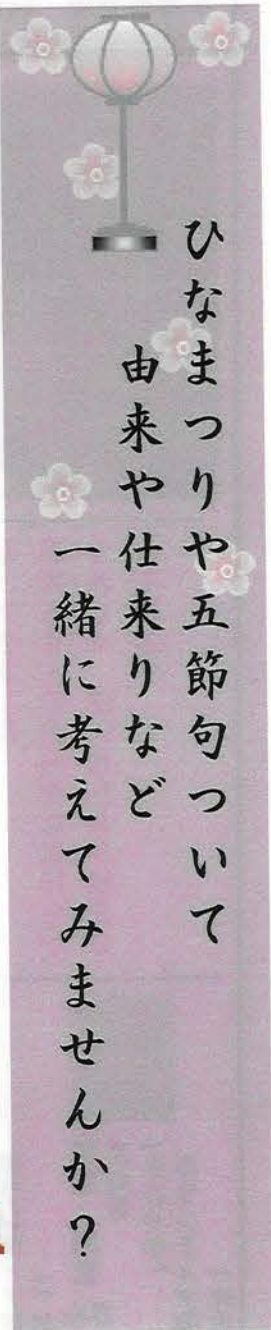


透析室の見学

編集後記

佐賀県の「嬉野温泉あつたかまつり」に行つて来ました。夕暮れ時になると、町の大通りや路地裏にまで華灯籠や手作りの灯籠が灯り地元の人たちとの交流があり、温泉町がより一層あたたかく感じられました。(Y)





ひなまつりの由来

雛人形の歴史は古く平安初期、今から一〇〇〇年も前にさかのぼります。源氏物語の中にも『ひいな遊び』と呼んで宮中の幼い姫たちの人形遊びが記されています。



中国には三月三日あるいは、三月上巳(じょうし)【最初の巳の日】に水辺でお祓いをする行事がありました。この行事が日本に伝わり、お祓いをした人形(紙や草でつくった簡素な型代)を水に流して送る日本古来の風習と結びついて「流し雛」の風習が生まれました。



これが雛まつりの起りといわれています。

雛人形の飾り付けについて

雛人形の飾り付けですが、二月中旬から、節句の一週間前に飾り付けるのが、一般的です。男雛と女雛は通常向かって左が男雛、右が女雛となるのですが、地方によっては反対のケースもあります。

これは、「右にでるものがない」などの「右が上位」という考えで、男性優位の並べ方になっています。また、菱餅が三色【紅・白・緑】なのも意味があり、一番上の紅が「桃」を、白が「雪」を、緑が「草」を表しています。



三月は、ちょうど桃の花が咲き雪が残って、地面に草が生える季節なので、「桃の節句の季節」を表現していると言われています。

また、「桃」ですが、強い生命力の象徴とされており、



魔を払う力があるとされています。

また、雛人形の片付けですが、昔からいつまでも飾っていると婚期が遅れると言われているので、人形の為に天気の良い日に出来るだけ早く片付けましょう。



五節句の「節」というのは、唐時代の中国の暦法で定められた季節の変わり目のことです。暦の中で奇数の重なる日を取り出して、季節の旬の植物から生命力をもらい邪気を祓うという目的から始まりました。

この中国の暦法と、日本の農耕を行う人々の風習が合わ

さり、定められた日に宮中で邪気を祓う宴会が催されるようになったそうです。「五節句」の制度は明治六年に廃止されましたが、今でも行事の一環として定着しています。



人日(じんじつ) 正月七日



七草の節句

中国の古い習俗に由来する。この日、七草粥を食べ邪気をはらう風習がある。七草を刻む際、鳥追い歌(こゝれを七草離しという)を歌う習俗もあります。



上巳の節句(じょうし) 三月三日



桃の節句

元は、三月の最初の「巳」の日。古くは河で身を清め不浄を祓い、また身代わりに人形に汚れを移して河や海に流した江戸時代以降は、雛祭りとして庶民にも定着し、女子の節句とされました。



端午の節句(たんご) 五月五日



菖蒲の節句

元は、五月最初の「午の日」

古くはこの日薬草摘みを行い、摘んだ蓬や菖蒲を門口に飾った。菖蒲(シヨウブ)の語が「尚武」に通じるとして武士の台頭に従い、庶民にも浸透し立身出世を願い幟や兜飾りを行うようになりました。



七夕の節供(しちせき) 七月七日



笹の節句 中国から伝わった牽牛星と織女星の星祭り伝説が元。日本では古来からあった「棚機つ女(たなばたつめ)」の伝説との類似性から七夕の日として定着しています。



重陽の節句(ちやうよう) 九月九日



菊の節句 易で陽数の極みである「九」が重なることから目出度い日とされました。菊の花を飾り、邪気を祓って長寿を祈る風習があり、日本に伝わりました。



(インターネットより抜粋)